
思春期

切原美樹

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

思春期

【Nコード】

N2338F

【作者名】

切原美樹

【あらすじ】

最近、赤也の事を避けるブン太。その事が気になって仕方がない赤也は仁王に相談する事に。ブン太が赤也を避けるわけとは…？「思春期って、意味わかんねーっスー！」

（前書き）

投稿1作目です。温かい目で読んでもらえたらな…と、思っております。（汗）

「うおお！！赤也！！こっち来んな！！」

最近、丸井センパイの様子が

おかしい……。近づこうとすると、今みてえにすげー声出して俺の事避けるし……。何でだ？俺、何かしたっけ？はっつ！！ま・ま・まさかとは思うが

嫌われてんの！！？俺！！……そうだとしたら、まじショックぢやん……。だって、考えてみてくださいよ？やつと手に入ったものが、自分を嫌って遠ざかって行っちゃうんすよ？

俺だって一生懸命アピって、ようやくあの人を手に入れたんだし……。もし、本当に俺の事嫌ってんだったら、立ち直れねえよ……。

「……何故そんな事俺に聞くんじゃ？」

仁王センパイなら、丸井センパイと同じクラスだから何か知ってんぢやないかと俺は考えた。

「そう言う事は参謀に聞いた方がいいと思うぜよ？」

「あの人が、そう簡単に教えてくれると思います？あの柳センパイが……。」

「それもそうじゃの……。だから心優しいこの仁王センパイに頼んだというわけか。」

「そうツス！」と、こび笑いをしながら頷く。てか心優しいなんてこれっぽっちも思っていない。だいたいこの人は人を騙すぺてん・あれ？

「でも、赤也、忘れている様だから言っておくが俺は……。」

そう言っただけセンパイは「ニヤリ」と、怪しく笑って、こう言った。

「悪魔をも騙せるコート上の詐欺師、仁王雅治ぜよ？……ぷり！」

ぶり！じゃない！！意味わかんねえッスよ！！？そうだ…もつとよく考えて相談するんだった！！！そうだよ！この人詐欺師じゃん！
！ペ・て・ん・しっ！！！！ああああ！！！！俺の単細胞！！！！

こうやって1人ではにくつてしていると仁王センパイは楽しそうに笑いながら、こう言った。

「いいぜよ、協力しちやる。」

「え……い……今なんと？」

「だ……からあ、仁王センパイがその理由を探るのに協力する、と言ってるんじゃない。」

まじかよ……。

「仁王センパイ！！ありがとっちゅうことじゃ！！丸井！もう入って来てもよかよ。」

………はい？

すると、部室のドアが開き、そこにいたのは……

「ま……丸井センパイ！！！？？」

「丸井、話は聞いたったな？」

「ああ……」

ちよっ……待て！！！？どういうことだ……！！！？丸井センパイが何でここに！？

「ちゅうわけじゃ、赤也あとは1人でがんばれ。」

そう言って仁王センパイは、出て行ってしまった。まじわけわかんねえ。

「………」

2人きりの部室は、シン…と静かで…でも、その沈黙を先に破ったのは丸井センパイだった。

「……赤也…悪い…」

「え……？」

「お…俺、赤也の事全然嫌ってねえからッ！！むしろ……」

そう言っつと、少し間をおいて、顔を赤くしてボソツと呟いた。

「むしろ……好きだし…／／／」

ああ〜なんでこの人こんな可愛いんだよ／＼／＼…っじゃなくって
！！き…聞くら今だ！今しかない！！

「…じゃ、何でセンパイ、俺の事最近避けてたんスカ？」

「そ…それはッ…！！…大人の事情？」

「大人って…センパイ俺より背ちつちやいじゃないっスカ！！！」

「だああああ！！！それを気にしてるって言うの…ッ！」

「ヤベッ！」って顔しながら自分の口を塞ぐ。

「…そんな事…気にしてたんスカ？」

センパイの顔を覗きこむ…。すっげえ真ッ赤だ。

「だって、かつこ悪イじゃん…俺のが年上なのによ…それに、目線
上にしてお前と喋ってるんだなって思うと…かつこつかねえし…」

「そんな事ないっスよ！小さくたって可愛いし、丸井センパイは、
すっげえカッコイっス！ってか、俺丸井センパイが傍にいてくれ
れば、それでいいっス！！」

俺は、ニカッと笑ってみせた。つつか、こんな事言ってる割にはち
よっと嬉しかったりする。だってそう思うのは、ちゃんと俺を意識し
てくれてるつつうことだし。

「（…コイツ可愛すぎんだけど／＼／＼）赤也！」

俺の肩を『ガシッ』と掴む。その手はかなり力がこもっていた。

「やらせるッ！！（本気）」

「はあ！！？あ…あんた何言ってるんスカアアア！！！（怒）」

・・・何か思春期ってメンドーっすね・・・。

）END（

（後書き）

最後まで読んで頂きありがとうございました！駄文ですみませんッ
ッ！（滝汗）これから頑張って書くのでよろしくお願いします！！
…ギャグにしようとしたが…笑えないですねッ！（泣）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2338f/>

思春期

2010年10月11日04時03分発行